

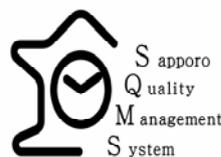


サッポロQMS

〔入札制度解説特集〕

サッポロQMSとは、主に札幌市内の建設関連企業のために考案された品質管理ツールで、札幌市の発注工事では、認証取得会社を評価し、優位に扱う入札が行われています。

平成20年度以降、その優位性がますます強化されると予想されています。まだ申請していない会社の早急な取り組みをお勧めします。



サッポロQMS事務局

札幌市の入札制度

入札制度の改善は全国的な趨勢ですが、札幌市でも毎年、改善が図られています。

札幌市では、入札時の競争性と公平性を確保し、工事成果の品質向上を図るため、平成19年度に以下の改正を行い、また、20年度中には、予定金額250万円を超える工事発注を全て一般競争入札で行うこととしています。

この中で、皆さんにとって特に重要なものは、工事成果の品質向上を図るために実施件数を拡大するとしている「総合評価一般競争入札（総合評価落札方式）」です。

その名のとおり一般競争入札で実施されるため、19年9月までは5千万円以上の工事で行われ、その発注対象等級は、土木で言えば、A1、A2が主となっていました。しかし、10月以降は、1千万円以上、さらに20年度中には、250万円超が一般競争入札となり、A1からCまで全ての等級が対象となります。

この入札方法では、企業の技術力が審査、評価されます。

同額入札による“くじ引き”が増加する昨今ですが、今後は、くじ引きは減少し、その分、企業力によって落札の有無を決することになります。

主な改正点

「札幌市役所ホームページから抜粋」

一般競争入札の拡大

18年10月から5千万円以上、19年10月から1千万円以上、20年度中に250万円超の工事が一般競争入札に移行します。

入札参加資格の緩和

競争性を確保するために、応札可能者が20者以上となるよう参加資格を緩和します。

総合評価落札方式の拡充

19年度には、簡易型を20件、特別簡易型を20件実施し、20年度以降は、実施件数の拡大を図るとともに、技術評価のウェートを高めることとします。

総合評価落札方式

総合評価落札方式は、公共工事の品質確保の促進に関する法律によって拡大が求められています。今後、札幌市をはじめ、多くの自治体で実施件数が増加する見込みです。

札幌市では、右のとおり除算方式を算定式として採用しています。

この算定式では、加算点は最高10点となり、技術評価点が110点満点（うち10点は加算点）なので、価格への反映はあまり大きくはないとも言えます。しかし、最低制限価格付近での熾烈な応札や、同額による“くじ引き”が多数生じている現状では、これらの入札で総合評価落札方式が実施されると、ほとんどの場合、くじ引きはなくなると思われ、評価点が非常に大きな意味を持つこととなります。（右上の工事2件では、総合評価点が同じ企業なし）

なお、札幌市では上記のとおり、今後、技術評価のウェートを高めることの方針を決定しています。

現行算定式（除算方式）

$$\text{総合評価点} = \text{技術評価点} \div \text{入札価格} \times 10,000,000$$

$$\text{技術評価点} = 100 + \text{加算点}$$

$$\text{加算点} = (\text{申請者の得点} \div \text{満点}) \times 10$$

企業評価の向上

右の表は、19年度に実施された特別簡易型総合評価落札方式の結果です。(札幌市発注)

2件の工事で、最低価格で入札した企業が逆転されており、技術評価の重要性が分かります。特に注目したいのは、総合評価順位が2位の企業です。この企業が仮に、あと1項目で評価を得ていたら、落札ができたという事実です。

20年度以降は、総合評価落札方式の拡大にあわせ、特に、区土木部発注工事(主にB・Cクラス)で特別簡易型の実施が確実視され、企業評価を高める取組が急務となっています。

注)特別簡易型とは、施工計画の提案を含まずに企業の実績評価のみで実施する方式。

X工事(応札企業19社)

	価格順位	技術評価順位	総合評価順位	総合評価1位との得点差
A社	1位	9位	4位	0.261
B社	2位	5位	2位	0.105
C社	3位	7位	3位	0.227
D社	3位	15位	7位	0.684
E社	3位	12位	5位	0.342
F社	3位	2位	1位	

Y工事(応札企業15社)

	価格順位	技術評価順位	総合評価順位	総合評価1位との得点差
G社	1位	3位	2位	0.109
H社	1位	10位	6位	0.335
I社	3位	1位	1位	

評価向上の取組

今後、拡大が予想され、土木B・Cも対象となる特別簡易型で受注チャンスを大きくするためには、企業評価の向上を図る必要がありますが、施工実績や技術者能力を高めるには、受注が前提となってしまいます。このため、受注前にしておかなければならない取り

組みに、企業体質の改善があり、そのためには品質管理ツールの活用が不可欠です。

品質管理ツールとしては、ISO9001が既知のところですが、中小企業にとっては、運用、費用の両面で負担が大きく、取得を躊躇してしまいがちです。

しかし、サポートQMSは、当初から中小企業が取得しやすく、企業体質の改善を本気で目指す事業者にあわせたシステムづくりを行っています。

現在(19.12.1)土木B・Cの企業を中心に70社あまりが認証を取得・申請中であり、取得企業からは、以下のような声が聞かれています。

認証取得によって、入札で加点優遇があった。

工事成績が上がり、企業評価点が高まった。

社内で経験を次へ繋ぐ土壌が育まれている。

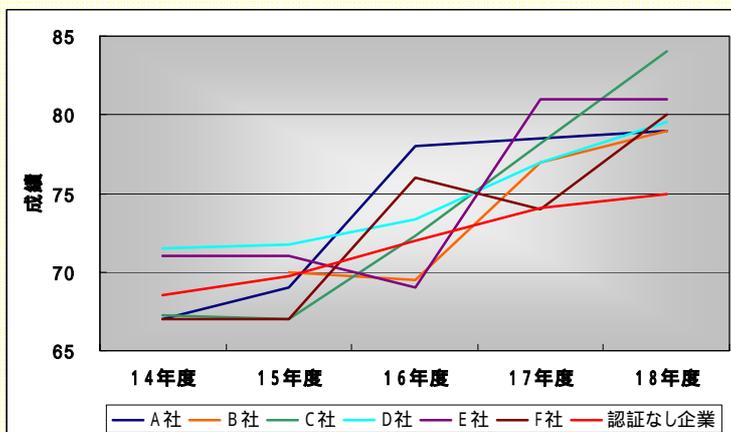
取得企業は、その力を伸ばし、右のグラフのとおり、確実に工事成績が向上しています。

さらに、平成18年度工事では、QMS企業9社が札幌市から優秀工事表彰を受けています。

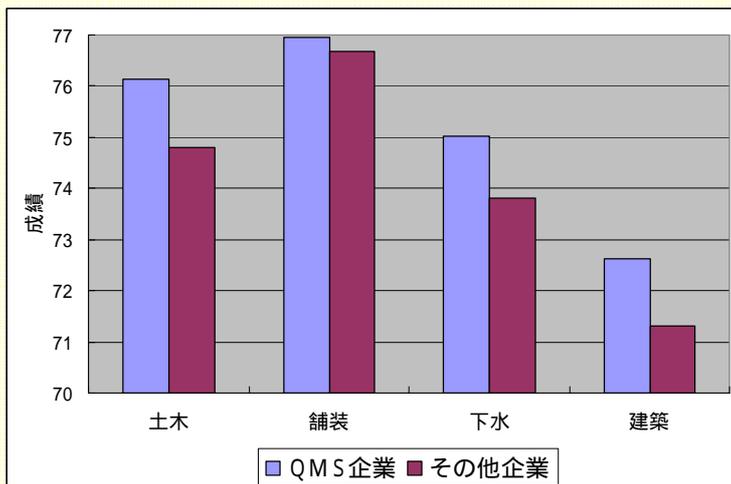
これら、取得の事実や高い工事成績、表彰実績は、全て入札時の評価項目であり、取得が好循環を生み出しています。

取得企業では、札幌市から講師を招いた研修会も実施し、切磋琢磨の日々を送っています。

みなさんも一日も早い認証取得に向けた取組をはじめてください。

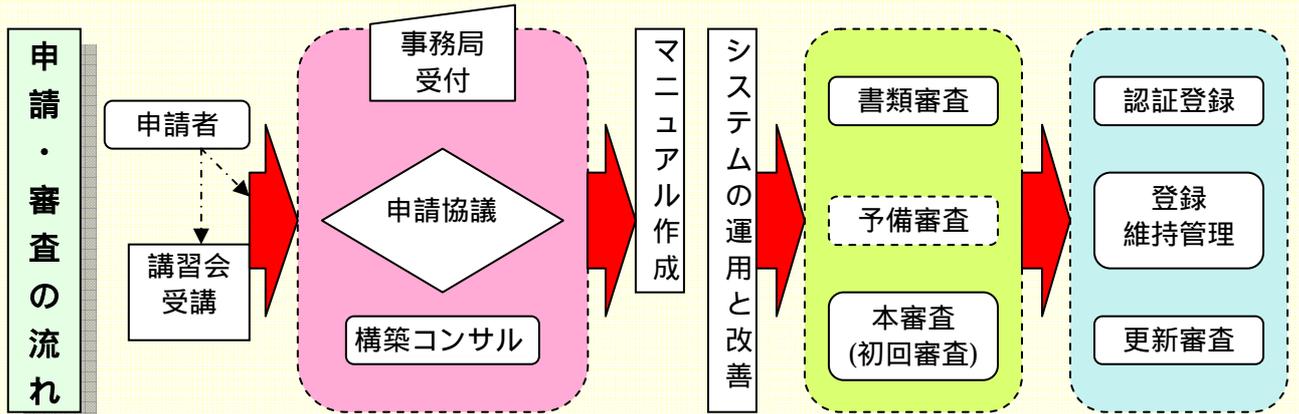


札幌市発注工事 工事成績の推移(土木:平均) QMS取得6社と認証なし企業との比較



平成18年度 札幌市発注工事 工種別工事成績(平均)

サッポロQMS



【サッポロQMSの理念】

1. ISOとは異なった地域の発信による口-カルスタング-ドであること。
2. 簡易な規格としており、さらに、指導・教育プログラムを導入していること。
3. 中小企業が生き残るためのシステムであり、ツールであること。
4. 将来のISO認証取得へ向けた土台作りに役に立つこと。

【サッポロQMSの特長】

1. シンプルな規格にしました。
小さな組織の経営者・社長さん自らが業務の品質管理の実態を系統的に把握してその改善が出来るように考えております。
2. 要求事項は基本事項のみ規格化しました。
小さな組織が顧客さま第一に徹して取り組むべき品質管理の基本事項のみを規格化しました。
3. 規格は業務に適した分かり易い表現にしました。
規格要求事項は専門用語を極力用いず平易で分かり易い表現にして、且つ、一般的知識で理解できる構成にしました。
4. 構築・実践の指導活動を展開します。
小さな組織に自ら品質意識が生まれて品質改善の意欲を期待できるように構築・実践の指導活動を行います。
5. 将来ISO9001認証取得の基礎が確立できます。
サッポロQMS規格の運用実績により、国際基準によるISO9001認証取得の基礎が確立できます。
6. サッポロQMSの認証取得費用は低価格に設定しました。
NPO法人による運営の為、経費は最小限で済みます。

QMSの活動予定

品質改善活動事例発表/討論会：H20・4月
H18年度優秀業者事例発表会：H20・5月



研修会の様子

連絡先

〒003-0002

札幌市白石区東札幌2条5丁目1-25

(リサ-チビル3F)

TEL：011-813-2381

FAX：011-813-2382

ホ-ムペ-ジ：http://www.sqms.jp/

おことわり

このパンフレットでは、土木工事を中心とした内容を記載していますが、総合評価落札方式は、下水道・水道・建築・電気などでも実施され、QMSは全てにおいて評価項目となっています。

また、これらの工事でも発注件数の拡大が札幌市の方針として公表されています。(2008・Jan)